

JOCジュニアオリンピックカップ
平成31年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会長野県予選会

《実施要項》

1. 主催 長野県柔道連盟
2. 共催 財団法人長野県体育協会
3. 日時 平成31年4月7日(日) 午前9時30分開会式
4. 会場 小諸市武道館 〒384-0802 小諸市乙1189
TEL 0267-23-3800

5. 競技方法

(1) 男女各7階級にて行う

男子 ・60kg級 ・66kg級 ・73kg級 ・81kg級
・90kg級 ・100kg級 ・100kg超級

女子 ・48kg級 ・52kg級 ・57kg級 ・63kg級
・70kg級 ・78kg級 ・78kg超級

(2) トーナメント方式で行う。但し、人数によってはリーグ戦もありうる。

※国際柔道連盟(IJF)が主催するすべてのジュニア大会において、男子55kg級と女子44kg級の廃止が決定されました。この決定に伴い、2019年以降の全日本ジュニア体重別選手権大会では、男子55kg級及び女子44kg級についても廃止となりました。詳細につきましては、別添全柔連通知(平成31年2月25日付 全柔連発第19-0018号)をご覧ください。

6. 出場資格

【男子】

- (1) 日本国籍を有し、長野県柔道連盟を通して全日本柔道連盟に登録している者。
- (2) 平成11年(1999)1月1日以降、平成16年(2004)12月31日以前の出生者。
(2019年中に15歳～20歳になる者)
- (3) 都道府県予選の出場は1地区に限る。
- (4) 前年度の県高校新人戦ベスト8入賞者。
- (5) 前年度の県中学総体決勝進出者2名。
- (6) (2)を満たし、長野県中学校体育連盟柔道専門委員長の推薦する、県中学新人戦優勝者。※(5)の決勝進出者
- (7) 各地区推薦4名(社会人、学生可)
※推薦者4名については各地区にて精査調整した上で、申込み願います。
- (8) 推薦出場枠として、前年度各階級優勝者で上記(1)・(2)の条件を満たす者は前年度階級から出場できる。
- (9) 各階級上下1階級の出場階級を選択できる。(但し、シード権は消滅する。)

【女子】

男子出場資格(1)～(3)まで同様

- (4) 各地区からの出場数は制限しない。(オープン参加)

7. 審判規定

- ・最新の国際柔道試合審判規定によって行う。(※IJF 新ルールで行う)
 - ・試合時間は4分。
 - ・優勢勝ちの判定基準は「技あり」とする。技による評価が同等の場合は、延長戦(ゴールデンスコア)により勝敗を決する。
 - ・ルール等において疑義が生じた場合は、当日の審判監督会議において決定する。
- ※ルール等に変更が生じた場合は、長野県柔道連盟公式ホームページ『柔道ながの』で周知いたします。

8. 服装 「全日本柔道連盟の規定に合格している柔道着であること」

- ・選手は姓名、所属名を記したゼッケンを柔道着の背部に縫いつけていること。
- ※但し、進学等で年度当初柔道着が間に合わない場合は、前所属のものでも構わない。

9. 軽量 当日午前8時00分～8時30分までに会場で行う。

10. 審判会議 午前9時00分より行う。

11. 申し込み方法

所定の用紙に記入の上、次の要領でお申し込み下さい。

- (1) 申込先 〒383-0043 中野市大字三ツ和 1033-1 中山重光 宛
- (2) 切 平成31年3月29日(金) 午後5時必着(郵送限定)
- (3) 参加料 2,000円(申し込みと同時に納付する。)

※申込み用紙は長野県柔道連盟 HP よりダウンロードをお願いします。

12. 上位大会への出場

- ・各階級1名に7月7日(日)に長野県にて開催される北信越大会への出場権を与える。
- ※尚、大会当日全柔連主催の全国大会に参加する選手がいる場合には、該当の階級において後日、優勝者と代表決定戦を行います。

13. その他、以下の点に留意すること。

- ・脳震盪対応について(ジュニア以下の大会にて規定)
下記の条項を理解・確認をし、参加申し込みをもって了承したものとします。
 - (1) 大会前1ヶ月以内に脳震盪を受傷した者は、脳神経外科の診察を受け、出場の許可を得ること。
 - (2) 大会中、脳震盪を受傷した者は、継続して当該大会に出場することは不可とする。(なお、至急、専門医(脳神経外科)の精査を受けること。)
 - (3) 練習再開に際しては、脳神経外科の診断を受け、許可を得ること。
 - (4) 当該選手の指導者は大会事務局および全柔連に対し、書面により事故報告書を提出すること。
- ・皮膚真菌症について
皮膚真菌症(トリコフィトン・トンズランス感染症)については、発症の有無を各所属の責任において必ず確認する。感染が疑わしい、若しくは感染が判明した選手については、迅速に医療機関において的確な治療を行う。
もし、選手に皮膚真菌症の感染が発覚した場合は、原則として大会への出場を禁止する。(ただし、2週間以内の治療証明書がある場合は、出場を認める。)